



木材高騰 建築ピンチ

ロシア軍によるウクライナ侵攻で、国内の木材価格が上昇している。経済制裁で、ロシア産木材の供給が滞っているためだ。住宅や家具の購入など市民生活にも影響が出ており、政府は対策に乗り出した。

東京都内に一戸建て住宅を建てる予定の会社員男性(36)は5月上旬、住宅建築会社の担当者からこう告げられた。「ウクライナ侵攻の影響で木材価格が上がっている。予算を増やすか、部屋の数を減らしてもらえないか」

男性は妻(32)と相談して、当初の計画より一部屋減らすことを決めた。男性は「世界情勢が生活にの

影響を受けている。木材価格は、世界的な住宅需要の回復やロシア産木材の混入による「ウッドショック」でもともと高騰していた。そこにウクライナ侵攻が拍車をかけた。ロシアは経済制裁に対抗して、日本への薄板(単板)の輸出を禁止した。

単板は、住宅の屋根や壁に使われる合板の素材となり、昨年、総輸入量(29・4万立方メートル)のうち82%をロシア産が占めた。国の最新の統計では、針葉樹合板の全国平均価格は3

月、1枚2070円。前年同月比で約7割高くなっている。

合板を扱う東京都内の木材販売会社の担当者は「これまで品薄になるのは災害時を除けば初めて。住宅だけでなく、ビルやマンションの建設にも影響しかねない」と気をむ。

今後もロシア材の供給が滞れば、夏以降は業者の在庫が尽きる恐れがある。政府は国産材への転換支援を進める。具体的には、木材加工業者らを対象に、国産木材の運搬や調達のための約40億円を補助する。住宅建築会社や工務店も支援する。政府は「海外市場の影響を受けにくい需給構造の実現につなげたい」としている。

ただ、国産木材を供給する動きは鈍い。国内では伐採後の木材を保管し、乾燥させる施設が不足しているうえ、担い手も減っているからだ。統計では1980年に約14・6万人いた林業従事者は、2015年には約4・5万人になった。

※農林水産省の資料に基づく



1 グラフ中のA:2021年3月頃、B:2022年3月頃に、合板の価格を上昇させる世界的な出来事が始まりました。その出来事を記事の中からそれぞれ抜き出しましょう。

A: **ウッドショック**

B: **ウクライナ侵攻**

「～でもともと高騰していた」と「そこに～が拍車をかけた」という二つの表現がヒントです。Bは最近の出来事ですから、わかりやすいですね。

2 傍線部の具体的な内容を、A君は下記のようにまとめました。□に当てはまる言葉を、指定された字数で抜き出し、文章を完成させましょう。

政府は対策として **国産材への転換支援** を行い、

最終的に **海外市場の影響を受け** に

くい需給構造の実現 を図りたいとしている。

対策の具体的な内容とそのねらいが一つの段落にまとめて書かれています。ロシア産木材の供給が滞ったことから、政府は国内産の木材に注目しているのです。

3 記者が最後に点線で囲んだ段落を入れたのは、どのようなことを伝えるためですか。次の中から適切と考えられるものを全て選び、番号で答えましょう。

① ③

- ① 国産材への急な転換は簡単ではなく、様々な対策が必要だと暗示するため。
- ② 木材価格高騰の本当の原因が、国産材の供給不足であると強調するため。
- ③ 国産材の供給はすぐに増えず、木材価格の高騰が続く恐れがあると示唆するため。
- ④ 国産材の利用を進めると、木材価格がかえって高くなると指摘するため。



「ただ、国産木材を供給する動きは鈍い」とあり、政府が目指す国産材への転換が実際は容易ではないことを伝えています。木材価格の高騰という問題の解決もすんなりいかない可能性がありそうです。

読んでみよう！

◆ミー太郎のおすすめ記事



木材価格4倍 ウッドショック

木材の価格が急騰している。米国を中心にコロナ禍で住宅需要が高まっており、北米での木材価格はこの1年で4倍近くに跳ね上がった。業界では「ウッドショック」と呼ばれ、国内でも住宅価格の上昇や工期の遅れ、家具にも値上げの影響など、消費者への影響も出始めている。

3度目の高騰

木材の価格高騰は、1970年代に原油の需給が逼迫して価格が高騰した「オイルショック」になぞらえて「ウッドショック」と呼ばれる。今回は「第3次ウッドショック」と言われ、初めてではない。

「第1次」は1990年代前半だ。米国で環境保護のため森林伐採の規制が強化され、供給が落ち込んだ。世界的に木材価格が上昇し、国産材にも注目が集まった。

「第2次」は2000年代半ば、中国など新興国で消費が高まる中、インドネシアで違法伐採が進んだた

め、伐採が制限されて木材価格が値上がりした。

いずれも、伐採制限など供給量が絞られた影響が大きかった。今回の第3次は需要増を主因とし、複合的な要因が絡むため、「先行きが見通しづらい。年内は続くのではないか」（輸入商社）との声が上が

る。元鹿児島大学教授の遠藤日雄氏は「米国の住宅需要の高まりはバブルの様相を呈している。一時的な需要か、長期的な流れかを見極める必要がある」と指摘している。

複合要因 先行き見えす

(2021年6月7日 読売新聞朝刊より)

木材の価格は海外情勢に左右されやすいですね。

国内の林業が大切なことがよく理解できます。

